

■川合眞紀 中部支部運営委員、 文化功労者と学士院会員に選出

川合眞紀（かわい・まき）自然科学研究機構分子科学研究所長が2021年度の文化功労者と新しい学士院会員に選ばれました。

川合氏は表面科学を専門とする化学者で、東京大学教授や理化学研究所理事などを歴任し、紫綬褒章や日本学士院賞などの多くの褒賞を受けておられます。女性初の日本化学会会長でもあります。一方で、政府の教育再生実行会議委員を務めたほか、SDGsの達成に向けて科学技術イノベーションの観点から議論を行う国連の「10人委員会」のメンバーにも選ばれるなど、内外で幅広く活躍されています。

36歳で東工大の客員教授に就任した際のインタビューで、「これまで研究室では一番若くてシッポだったけれど、小さいながら自分で研究室を運営できるのが魅力」と語っておられましたが、来年からは自然科学研究機構の機構長にも就任されます。日本、いや世界の「アタマ」としての益々のご活躍に、中部支部からも声援を送りたいと思います。

（辻篤子）



■金原 勲先生の叙勲を祝して

令和3年秋の叙勲に際し、東京大学名誉教授・金沢工業大学教授 金原 勲先生には「瑞宝中綬章」を受章され、衷心よりお祝い申し上げます。

昭和39年4月、東京大学工学部船舶工学科から同大学大学院工学系研究科に進み、博士課程を修了し工学博士を授与されました。その後、同大学講師、助教授、教授を歴任し、昭和54年12月から翌年11月まで米国ミシガン大学工学部の客員研究員として留学されました。ご研究の範囲は複合材料工学全般に亘り、日本複合材料学会会長をはじめ多数の学協会の役員に加え、内閣総理大臣科学技術会議専門委員等多くの政府審議会委員を務められました。平成13年3月、東京大学を定年退官すると共に、同年4月金沢工業大学教授として着任し、同大学ものづくり研究所長をはじめ研究支援担当副学長、研究部長、実海域船舶海洋研究所長、大学院高信頼ものづくり専攻主任、COI研究推進機構顧問等を歴任し、取り分け同大学の研究部門の発展を力強いリーダーシップによって推進されました。

ご自身では、「本来はのんびり屋で、ハーモニーとバランスを好み、アンバランスは苦手で、趣味としては目的もなく散策すること」等とされ、厳しさと優しさを兼ね備えたお人柄と拝察しております。

最後になりましたが、先生の今後益々のご健勝を祈念申し上げます。（石川憲一）

■「ロボットの明日 日本の未来」 で中部レクチャー

日本工学アカデミー中部支部（EAJC）は、「知の巨人が縦横無尽に語り尽くす ロボットの明日、日本の未来」と題した第13回EAJ中部レクチャーを11月6日（土）にオンラインで開催しました。ゲストは福田敏男名城大学教授と下山勲富山県立大学長、ともにロボット研究で世界をリードするお二人で、話題はご自身の研究から今後の課題まで、予定された1時間半はあっというまに過ぎ、もっともっとお聞きしたかったというのが正直な感想でした。かつて世界一といわれた日本のロボット技術ですが、福田先生によれば、ロボットの世界地図は今や大きく変わり、日本は産業ロボットこそ強いものの、そこから派生する医療などの応用面では欧米に後れを取っているとのこと。医療用ロボットのダヴィンチにしてもその8割の部品は日本製といい、どこかで聞いたような話です。背景には、リスクをとりにくい環境もありそうです。こうした現状に両先生の危機感は強く、新しいアイデアを持った次世代を育てることが喫緊の課題であること、そして、中部地区への期待が語られました。参加者は117人、約7割が会員外で、若手も多かったようです。今後も、知の巨人たちに若者を大いに触発していただく機会を持てたらと思います。（辻篤子）

